

1. 日 時：令和3年3月29日（月） 13：30～
2. 場 所：女川町役場庁舎 3階小会議室
3. 議 事：（1）今後の町民バスの再編・見直しについて  
（2）令和3年度の方向性について  
（3）その他

■議事概要

(1) 今後の町民バスの再編・見直しについて

○事務局からの説明後、以下の質疑をおこなった。

A委員 青ルート（仮）大原・宮ヶ崎線については、大原住宅9：05発に乗って地域医療センターに行き、診療が11：30に終わった場合、帰りは地域医療センター前11：33発のバスに乗車すれば、女川駅で乗り越して大原住宅まで帰れるという認識で良いのか。

事務局 例えば、4便の医療センター9：23着で降りた場合、帰りは地域医療センター11：30発の便に乗ったまま待って頂き、大原住宅まで帰るというイメージで考えている。

A委員 大原住宅から地域医療センターへ行く際に、宮ヶ崎を経由するので遠回り感がある。また、地域医療センターからの帰りについては、女川駅前約20分の待ち時間が発生する。

逆に、宮ヶ崎の方は病院へ行く際は近いが帰りはぐるっとまわるため、遠回りになっているので、その部分の使い勝手の工夫が課題だと考えている。

議長 限られた台数で回るのは難しい。

A委員 （仮）大原・宮ヶ崎線については、切り離して2ルートで運行する。もしくは、（仮）浦宿・旭が丘線などと組み合わせた運行も考えられる。その場合は、ツルハドラッグ女川店には乗り換えせずに直接アクセスできるというメリットが出てくる。実証試験を通じて利用者がどのように利用しているか等を検証しながら、より使い勝手の良い方向を検討する方法もある。

議長 利用者は昨年の循環20バスの使い方に慣れているので、どのようにしても利用しやすい・しにくい等の意見は出てくると考えられる。

令和3年度に実証試験を実施するが、利便性を考えながら公共交通ネットワークを構築していければ良いと考えている。

B委員 案①の場合、車両の都合もあると思うが、待ち時間が長いと感じる。

赤・青・黄のルートが別の車両になるのであれば、どのバスがどこに行くか分かりやすくした方が良い。例えば、車体の色が赤・青・黄にそれぞれなっていれば分かりやすくなるのではないかと。

事務局 昨年の7月～9月に運行した循環20バスでも、どこのバスに乗っていいのか分からないとの意見も多かったため、第2期実証試験の際にどこの場所まで行けるかがわかりやすいように表示したいと考えている。

バス車両の全塗装は費用の問題があるが、ラインを塗る等の対応をしたいと

考えている。

議長 車体へのラッピングについてはこれまでも様々な意見があるので、工夫した中で次回の実証試験に臨みたいと考えている。

B委員 出来るだけ利用する方に分かりやすいようにして頂きたい。

C委員 40分間隔の場合、次の便への乗り継ぎに時間がかかると思うが、雨や風が強い日にバスが着くまでの間、雨風を避けられる場所については何か考えているのか。

ツルハドラッグ女川店などに声をかけて、天候が悪い際などに避けるためのスペースを確保する事も必要なのではないか。

事務局 地域医療センターやスーパーおんまえやなど、主要な目的施設には雨風をしのげる部分はあるが、宮ヶ崎団地等の地区によってはない所も多いので、今後のことを含めて検討する。

B委員 宮ヶ崎は雨風をよける環境が必要と思う。せめて待っている間に座れる腰掛けを用意して貰いたい。

議長 地区の停留所については、地区の便利施設という考え方で運営して頂く等、やり方は色々あると思うので地区で話し合いを重ねて良いものにしていきたいと考えている。

提出した案①・案②を一つに絞り、意見を頂きながら中身をより検討していきたいと考えているが、案①で進めて問題ないか。

全員 はい。案①で問題無いです。

## (2) 令和3年度の方向性について

○事務局からの説明後、以下の質疑をおこなった。

議長 令和3年度の方向性について、ご承認いただいたということで宜しいでしょうか。

全員 はい。問題無いです。

## (3) その他

○特になし。

以上